

離散選択モデルによる構造推定の現状と課題

所属・名前：明城 聡（法政大学経済学部）

要旨：差別化財市場の需要関数のモデルとしては消費者効用理論にもとづいた離散選択モデルが広く知られている。近年では市場レベルでの集計データを利用する推定アルゴリズムが利用できるようになったことで、消費者レベルの個票データが利用できない市場についてもランダム係数型ロジットモデルなど離散選択モデルの需要パラメータを推定することが可能となった。本報告では、これら集計データを利用した離散選択モデル推定の現状について手法と事例を踏まえて議論する。また、複数個の財の購入を許した場合への離散選択モデルの拡張についても事例を含めて紹介する。